

# 常呂川の概要

<河川の特徴>

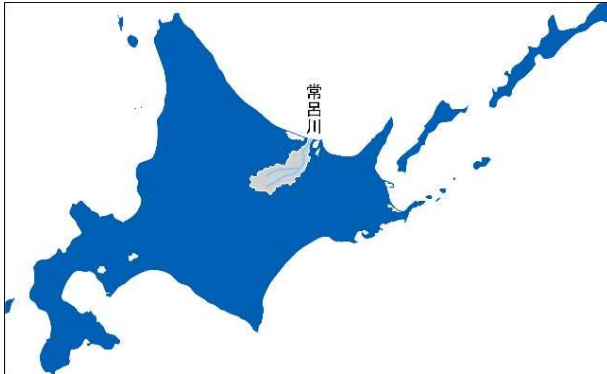
# 一級河川 常呂川について

- ◆ 水 源 石狩山地三国山(標高1,541m)
- ◆ 流域面積 流域面積1,930km<sup>2</sup>
- ◆ 流路延長 120km

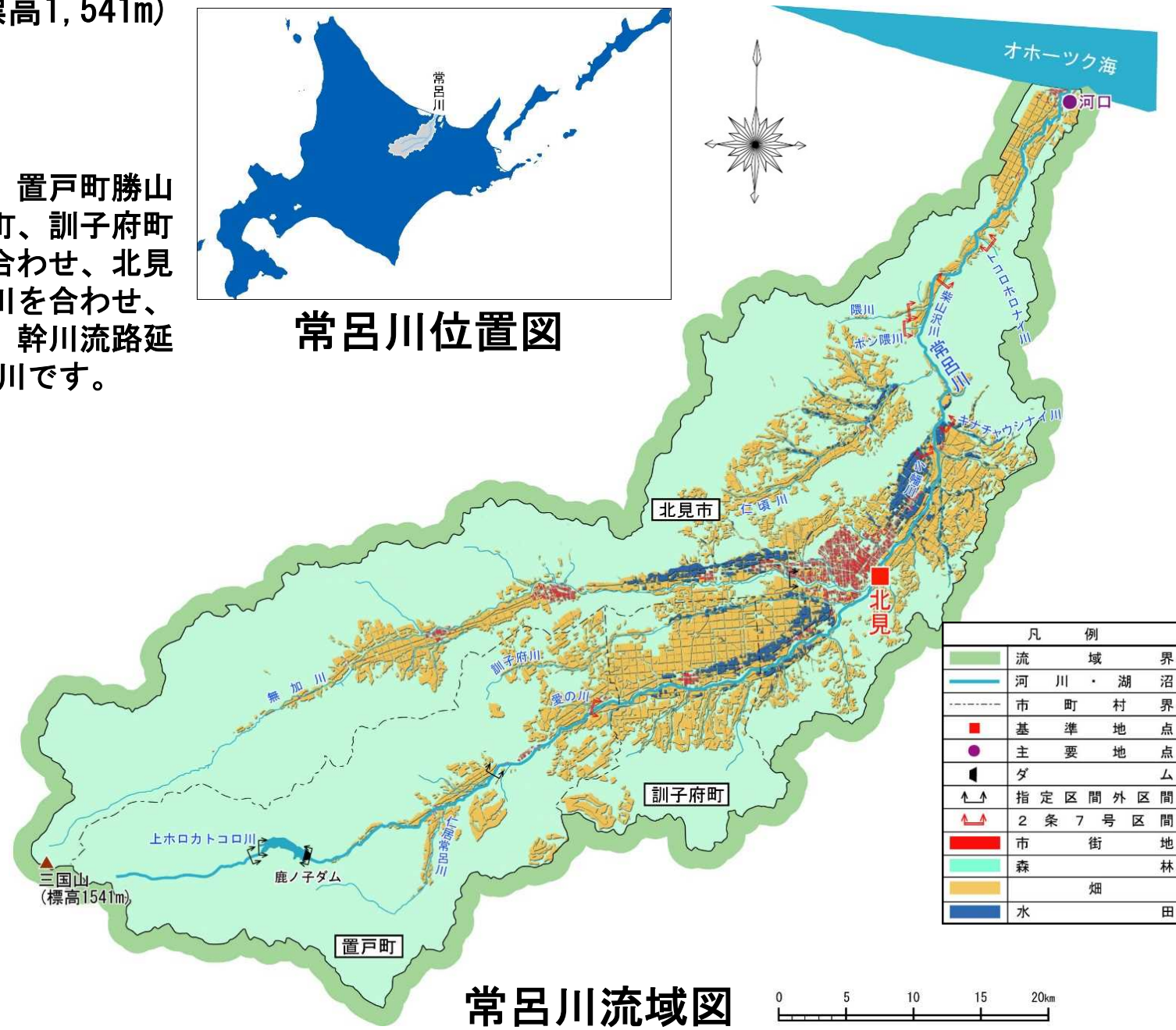
・水源の三国山より山間部を流下し、置戸町勝山において仁居常呂川を合わせ、置戸町、訓子府町を経て、北見市内において無加川を合わせ、北見盆地を貫流し、狭窄部を流下し仁頃川を合わせ、常呂平野を経てオホーツク海に注ぐ、幹川流路延長120km、流域面積1,930km<sup>2</sup>の一級河川です。

・流域の土地利用は、山林等が約82%、農地が約16%、宅地等の市街地が約2%となっており、流域内は森林資源等に恵まれています。

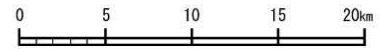
・流域は農業、水産業が盛んで、中下流部は農地として明治初期からひらけ、河口沿岸ではホタテの増殖などの漁業が行われており、タマネギや甜菜、ホタテの全国有数の産地となっています。



常呂川位置図



常呂川流域図

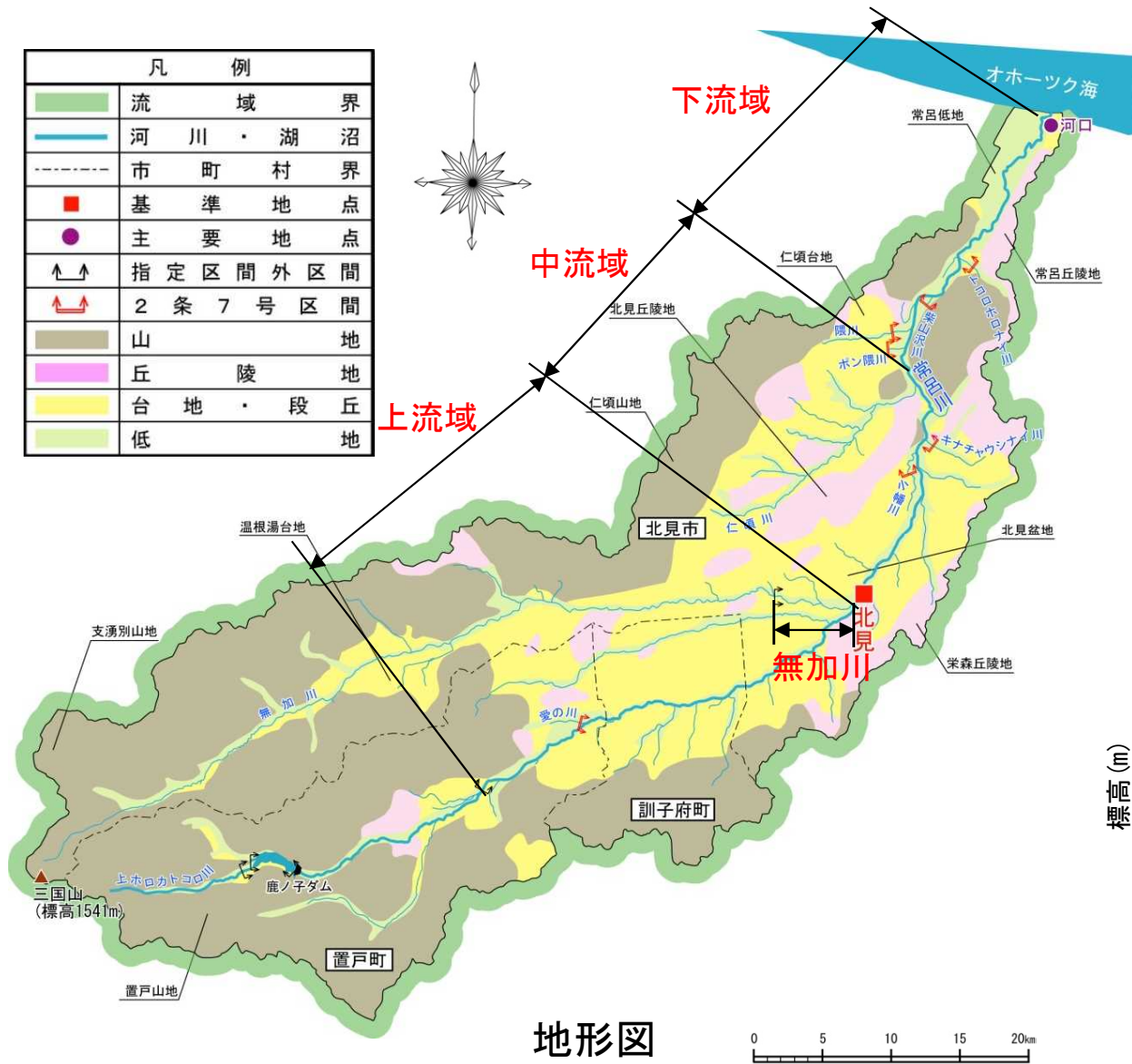


凡 例	
	流 域 界
	河 川 ・ 湖 沼
	市 町 村 界
	基 準 地 点
	主 要 地 点
	ダ ム
	指 定 区 間 外 区 間
	2 条 7 号 区 間
	市 街 地
	森 林
	畑
	水 田

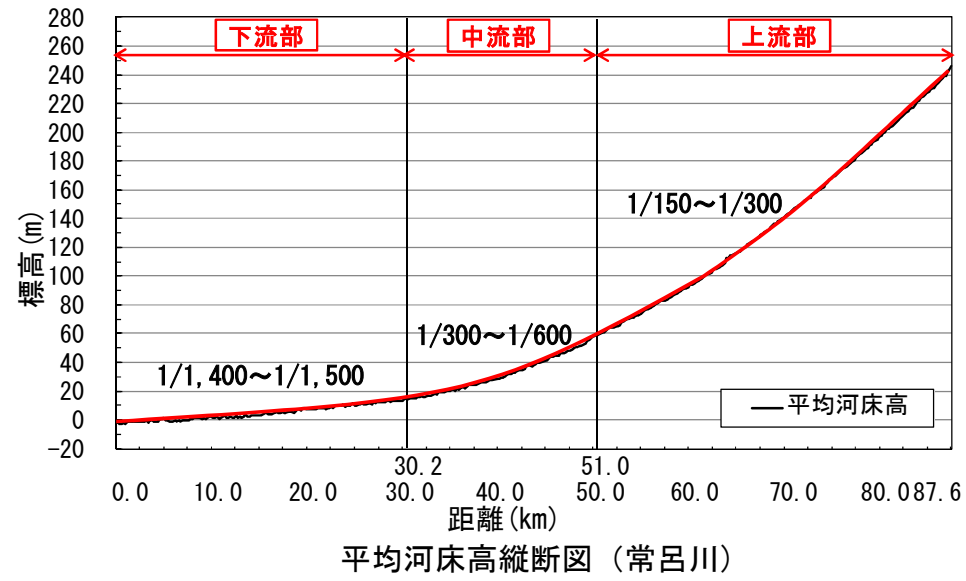
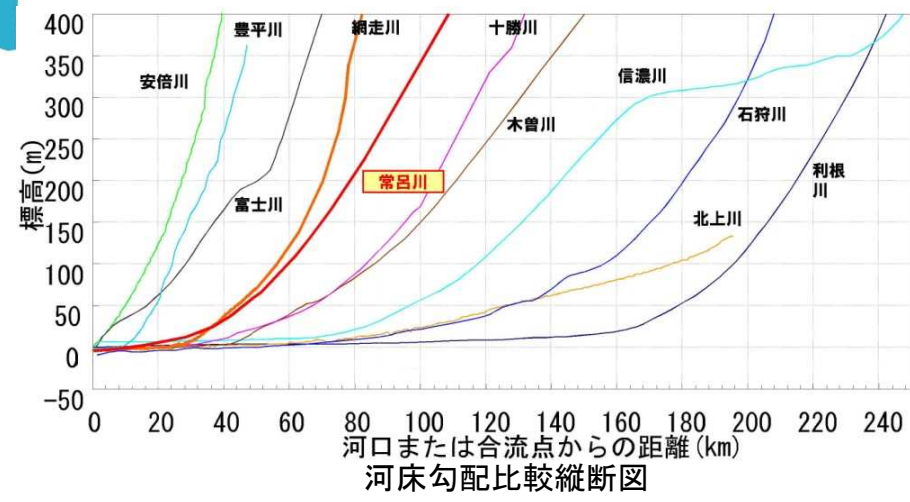
# 常呂川流域の地形① 河道の特性

◆ 常呂川の河床勾配は下流部1/1,400~1/1,500程度、中流部で1/300~1/600程度、上流部で1/150~1/300程度、源流部で1/30~1/150程度である。

凡 例	
	流域界
	河川・湖沼
	市町村界
	基準地点
	主要地点
	指定区間外区間
	2条7号区間
	山地
	丘陵地
	台地・段丘
	低地



地形図



# 常呂川流域の地形② 流域の地形特性

- 流域の地形は、大きく山地、丘陵地、台地、低地に分類される。北見市を中心とする北見盆地は、網走地方における最大の内陸凹地となっている。下流部は河床勾配が緩やかで、堤々間で低水路が大きく蛇行している。



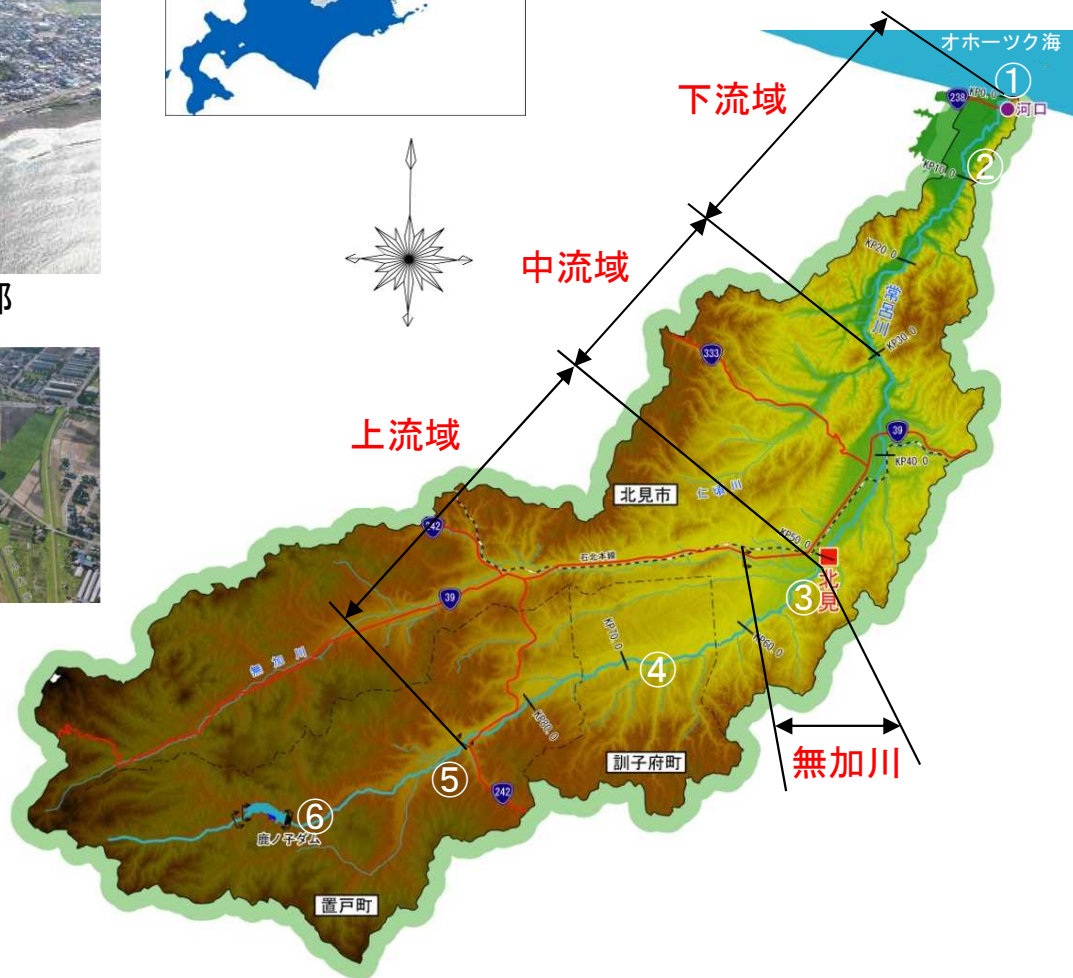
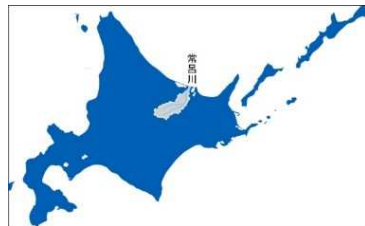
①大きく湾曲した河口部



③北見市の市街地



⑥鹿ノ子ダム



地形図



②下流部の状況



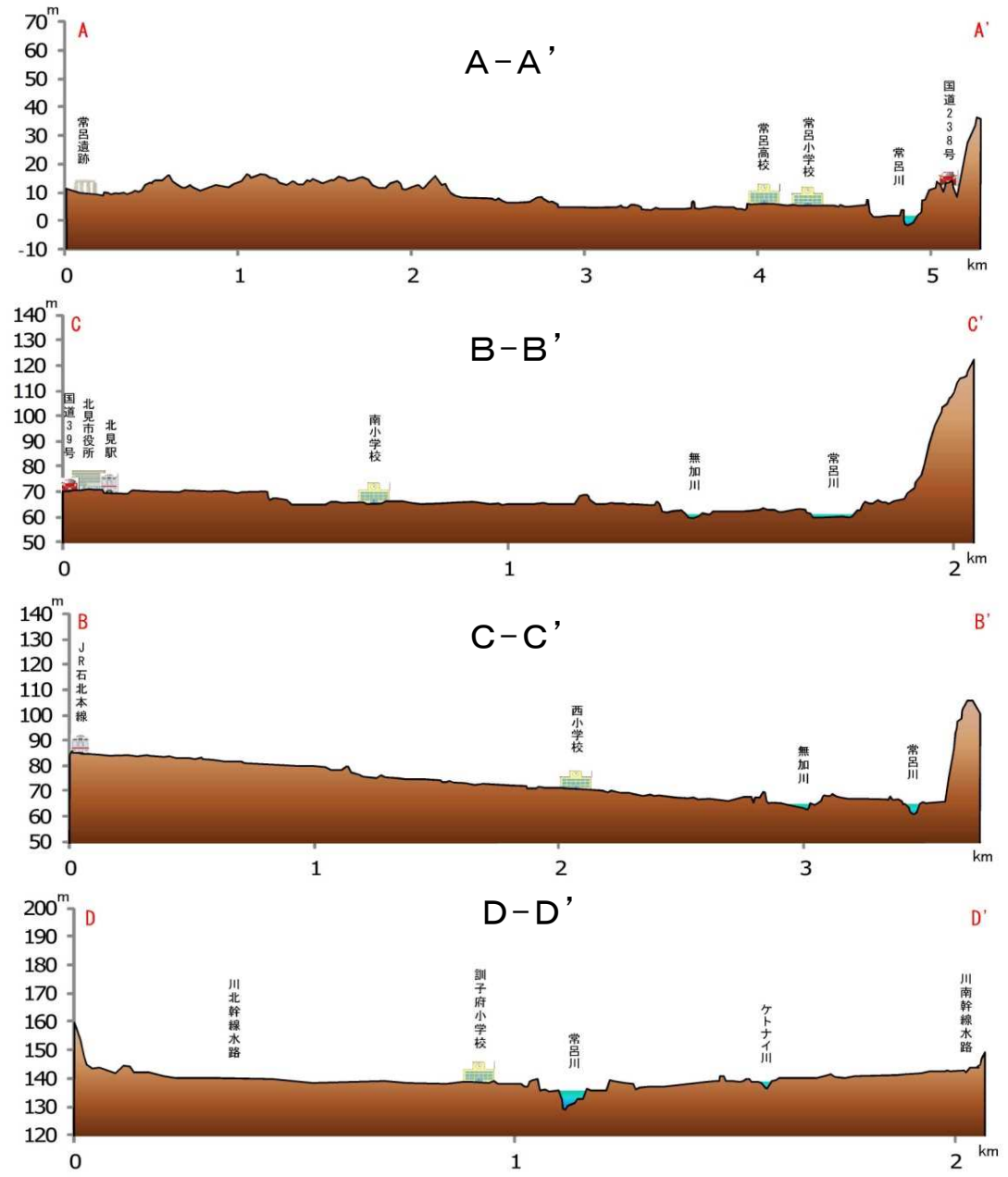
④訓子府町市街部



⑤直轄上流端の置戸地区

# 常呂川流域の地形③ 河川周辺の地形特性

◆ 下流域の河川周辺は低地が広がり、中流域と上流域は低地から緩やかに台地や段丘が形成されている。



# 常呂川流域の地質特性

- ◆ 流域の地質は、主に火山岩や火山碎屑岩からなる新第三系が分布する西部地域、白亜系や先白亜系が分布する中部地域、新第三系の非火山性堆積岩類が分布する東端部地域に分けられる。
  - ・ 中・下流は、砂礫を主体とした第四紀更新世の段丘堆積物が分布し、特に北見盆地では広範囲に分布。
  - ・ 河口付近には厚さ2~3mの低位泥炭の分布が認められる。
- ◆ 河道横断箇所（指定区間外区間）の地質は源流域が固い火山性岩石（溶岩貫入岩）で、指定区間外区間は主に軟弱な未固結堆積物となっている。

